

## ウメのカンデラブル整枝法

園芸試験場

### 1 取り上げた理由

ウメは、アルカリ性自然健康食品として今後とも需要の増大が見込まれている。平成9年における本県のウメ栽培面積は597haで全果樹栽培面積の約25%を占めている。しかし、散在的な園地が多く、栽培者の高齢化や高樹高のため管理作業に苦慮するケースが増えつつある。

そこで、低樹高化によるせん定技術の簡略化、結実安定、作業の省力化を図ることを目的としてカンデラブル整枝法の改良型を検討してきた。その結果、結果部位の低樹高化が図られ早期多収なので普及に移す技術とする。

### 2 普及技術

#### 1) 樹形構成の手順

- (1) 植栽距離は列間2m、樹間4mとする(125本/10a)。
- (2) 植栽列には主枝を誘引するためのパイプを、地上50cmの高さに設置する。
- (3) 1年苗を定植し、地上40cmで強く切り返す。発生した新梢を養成し、地上50~70cmの部分に主枝を育成する。



- (4) 結果母枝は、主枝の背面から徒長枝を利用して育成する。発生した徒長枝を20cm以上の間隔をとって配置し、1年目は軽く先刈りを入れる程度とする。2年目になると短果枝が着生するので、それを結果母枝とする。
- (5) 結果母枝の利用は原則1年とし、最長でも2年目には剪除する。
- (6) 脚立を使用しないのが原則なので、結果母枝の長さが2mを越えるような場合は、2m以内の高さの短果枝の部分で切り返す。

#### 2) 適応品種

- (1) 全ての品種に応用が可能であるが、特に短果枝に良い果実が結実する品種(白加賀、鶯宿、古城等)への適応性が高い。

### 3 利活用の留意点

- 1) 樹や枝の勢力が主幹の近い部分に集中し、主枝先端部分が弱くなりやすいので、結果母枝の更新は必ず結実2年以内に行う。
- 2) 品種により枝の発生や花芽の着生状況に差がみられるので、品種特性を十分に把握して育成する。「白加賀」は、枝の発生が少ないので、積極的に切り口を作り、枝の発生を促すようにする。
- 3) 植栽後樹齢が若いうちに主枝の位置づけをはっきりさせ、主枝と競合する強い枝は極力配置しないように努める。

(問い合わせ先：宮城県園芸試験場栽培部 電話022-383-8132)

#### 4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 樹形改善による果樹の安定生産技術の開発 平成7～11年
- 2) 参考データ

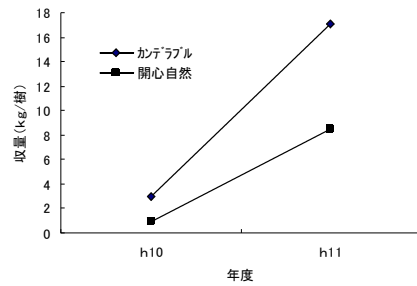
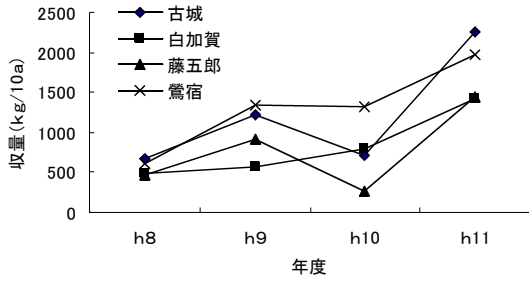


図-1 品種別10a換算収量の推移

図-2 「白加賀」の樹形別の収量の推移

(樹齢は平成11年で10年生, 改良6年目)

表-1 カンデラブル整枝したウメの枝の発生状況

品 種	年次	新梢数 (本)	新梢長 (cm)	結 果 母枝数 (本)	結 果 母枝長 (cm)	1結果母枝当 り短果枝数 (本)	短果枝 割合 <sup>z</sup> (%)	幹周 (cm)	樹高 (m)	列方向 樹幅 (m)	列間方 向樹幅 (m)
古 城	平7	14.0	160.0	0	-	-	-	-	-	-	-
	8	7.0	100.2	10.0	106.9	39.1	-	21.0	3.0	4.3	3.7
	9	9.0	92.8	15.0	78.4	31.6	-	27.4	2.5	5.0	2.2
	10	28.0	109.3	16.0	77.9	29.8	89.1	39.0	3.9	6.5	3.7
	11	15.0	121.3	9.0	126.1	43.1	86.7	42.0	3.6	6.5	2.0
平 均		14.6	116.7	10.0	97.3	35.9	87.9	32.4	3.3	5.6	2.9
白加賀	平7	11.0	113.0	1.0	198.0	95.0	-	-	-	-	-
	8	7.3	133.5	6.0	111.8	42.3	-	16.0	2.7	3.2	2.1
	9	4.3	156.4	13.3	87.4	37.6	-	22.3	3.5	4.0	1.2
	10	10.0	102.0	6.0	110.0	42.3	87.4	26.2	3.9	4.7	2.4
	11	9.0	132.0	5.0	80.7	32.8	89.7	30.0	3.9	6.2	2.9
平 均		8.3	127.4	6.3	117.6	50.0	88.6	23.6	3.5	4.5	2.2
藤五郎	平7	32.0	132.0	0	-	-	-	-	-	-	-
	8	16.0	108.7	16.0	100.6	37.9	-	18.0	3.2	4.6	2.1
	9	10.0	125.7	19.0	69.6	32.9	-	20.0	3.2	4.0	1.2
	10	18.0	113.8	8.0	95.3	44.5	88.9	25.0	4.9	4.9	2.2
	11	9.0	110.8	9.0	106.7	41.1	89.8	27.0	3.4	5.8	1.9
平 均		17.0	118.2	10.4	93.1	39.1	89.4	22.5	3.7	4.8	1.9
鶯 宿	平7	26.0	172.0	2.0	198.0	87.0	-	-	-	-	-
	8	13.0	112.7	12.0	142.1	55.3	-	31.0	3.2	4.3	2.4
	9	20.0	144.3	18.0	69.8	33.1	-	36.5	3.1	4.3	1.2
	10	15.0	74.5	16.0	99.9	38.1	88.3	37.3	3.9	5.3	2.8
	11	29.0	136.8	3.0	59.7	30.7	93.4	38.0	3.5	6.2	2.8
平 均		20.6	128.1	10.2	113.9	48.8	90.9	35.7	3.4	4.8	2.3

<sup>z</sup> 1結果母枝上に発生した枝のうち約10cm以下の短果枝の割合

※経済指標：

	カンデラブル整枝法	開心自然形整枝法
粗収益	1,599,360円 (累積収量7,140kg×@224円/kg)	449,072円 (累積収量2,228kg×@224円/kg)
経営費	676,092円 (苗木, 資材費他)	579,562円 (苗木, 資材費他)
所 得	923,268円	-130,490円

※植栽から成木までの7年間分, 単価は仙台市場(宮城県産H6～10の平均) 価格

- 3) 発表論文等 なし